

ピアノを知り尽くした
調律師による
ピアニストのための
ピアノ講座

三矢真人ピアノ講座

ピアノの泉

[全6回シリーズ]

[第4回～第6回] 2016年の予定

<http://otonoha-concert.com/piano/>

講座内容(予定)

[第1回] 鍵盤楽器の始まりと発達
2015.7.23(木) ※終了しました

[第3回] 調律師の仕事
2015.11.6(金) ※終了しました

[第5回] ピアノ製作とピアニスト、ピアニストの考えるピアノ
2016.3.31(木) 開講

[第2回] ピアノの素材とその構造
2015.9.8(火) ※終了しました

[第4回] 演奏の現場でのピアノ、いろいろなピアノ
2016.1.12(火) 開講

[第6回] ピアノ・アクション製作
2016.5.17(火) 開講

三矢真人ピアノ講座

ピアノの泉

稀代の調律師によるピアノ講座
[全6回]シリーズ 2016年の予定

35年にわたるピアノ技術者としての経験と、たくさんの演奏家との関わりから得られた、ピアノを演奏するために大切な知識を伝えます。
演奏の現場ですぐに役立つ、目からウロコの実践的講座です。

[第4回]演奏の現場でのピアノ、いろいろなピアノ

アップライトからグランド、ハイブリットピアノまで、日本国内で出会うピアノを紹介しながら、それぞれの特徴と演奏効果について考えていきます。

■2016年1月12日(火)開講 会場:ユーロピアノ赤坂

[第5回]ピアノ製作とピアニスト、ピアニストの考えるピアノ

ピアニスト・田村美和氏をベルリンよりお招きして、C.BECHSTEIN社のマイスターたちと共に携わったピアノ製作現場に触れます。

■2016年3月31日(木)開講 会場:ユーロピアノ赤坂
特別ゲスト:田村美和

[第6回]ピアノ・アクション製作

ピアノ・アクションモデルを製作することで、鍵盤から打弦までの構造的イメージを体感して、実際の演奏に役立てます。

■2016年5月17日(火)開講 会場:武蔵野プレイス(予定)

[受講料] 各回 6,000円

- 各講座は個別に受講できます。
- 連続して受講されなくても内容が分からなくなることはありません。
- お支払いは、講座当日、現金にてお願いいたします。
- 講座の内容は、受講される皆様のご要望などにより変更になることがあります。

[時間] 各回10:30~12:00

[会場] ユーロピアノ赤坂 東京都港区赤坂6-1-20 国際新赤坂ビル西館B1F
武蔵野プレイス 東京都武蔵野市境南町2-3-18

[お申し込み]

インターネット <http://otonoha-concert.com/piano/>
メール piano@otonoha-concert.com

●メールの場合は右記を明記ください。1.氏名 2.電話番号 3.希望の受講回

受講者の声

「どうやらこの楽器のいい音が出せるのかというアプローチを、楽器の構造を観察して導き出せる、今後のピアノ演奏に生きる収穫がたくさんありました」

——第1回「鍵盤楽器の始まりと発達」に参加 早坂なつき(ピアニスト)

「三矢さんのお話しは、これまで受けたピアノについての講義と違って、ピアノの構造が演奏と直接関係があるという事を教えてくれます」

——オープニング講座に参加 細木原光紗(ピアニスト)

「技術、知識的な面から、感性の計り知れない奥深さ、目の前にあるものと対話するという、美というもののありかたについて、人の手の、果てしない叡智について…果てしなく広がっていく世界を感じる講座でした。」

——第3回「調律師の仕事」に参加 新屋賀子(作曲家・ピアニスト)

第1回~第3回の講座の様子はWEBに掲載しています。

<http://otonoha-concert.com/piano/>

ピアノの泉

検索



講師 三矢真人(みつやまこと)

1960年生まれ。国際音楽学校ピアノ調律科を卒業と同時に浜松のピアノ工場で研修生として採用、ピアノ製作を学ぶ。

楽器店勤務を経て、母校の調律科講師として2002年までに約200名の生徒を育てる。

1988年頃よりヨーロッパ製のピアノを手掛け、C. BECHSTEIN 本社工場

(Berlin)、SAUTER本社工場(Spaichingen)で製作研修。帰国後、「ピアノ・プロデュース」設立。

2000年、PLEYEL社(Paris)の招聘により渡仏。本社工場・パリ高等音楽院などを視察、フランスのピアノ製作とピアニスト育成の関連に感銘を受ける。

雑誌連載、高校教科書への寄稿など著作多数。

多くのコンサート・録音の調律なども手掛けている。



2015年11月6日[第3回講座]の様子

僕たち調律師は、まず最初、先輩であるベテラン調律師から構造・調整・調律を教わるんです。素材はこれこれとか、こういう仕組みで音を鳴らすとか。そして何年か過ぎたころにあれ??て思ったんです。弾くのは僕じゃあないやっ…て。

ピアノ技術者として大切なのはここからで、ピアニストが何をしているのか、何をしたいのかが理解できないと、求められる技術者にはなれないぞという事。つまりベテランのピアニストに音作りを教わらないといけないという事です。

幸い僕は東西統一に向かう西ベルリンの真ん中で、ベヒシュタインのマイスターたちとピアノ製作に取り組む田村美和先生と出会うことができました。田村先生は大阪音大を卒業された後、ベルリン音大を卒業されW.ケンプの愛弟子として演奏・音楽学校での指導をしながら週の半分をピアノ工場へと通っておられました。

コンサート用の楽器としてのベヒシュタインのピアノ製作現場が、今の私の仕事の基

礎となりました。

パリのコンセルバトワールでは、調律室の技術者たちが作曲者の依頼で新しいピアノの試作・製作をしていたり、ピアニストの将来のための楽器選びや配置を考えていたり、演奏家と技術者が連携したピアニスト育成があることも知りました。

以前はヤマハの工場でも、リヒテルがコンサートグランド製作に大きな助力をされ、CFという機種を開発、ヤマハが大きく世界へ踏み出すきっかけになったそうです。しかし、現在の日本のピアニスト育成では、技術者側からの提案が薄いように思います。ベテランピアニストから若手技術者へ、そしてベテラン技術者から若手ピアニストへの提案がお互いの未来への大きな手掛かりになると考えます。

ピアノ調律師 三矢真人